

1. そろそろ「沖縄トラフ最大の熱水活動域」の暫定王者ではなく統一王者を決めようか？

海洋研究開発機構 深海・地殻内生物圏研究分野 高井研

2014年は沖縄トラフにおいて新しい深海熱活動域が沢山見つかった年でした。

まず3月4日に海洋研究開発機構が、「中部沖縄トラフで新たに2つの熱水域を発見～熱水噴出域における効率的な調査手法の有効性を確認～」というプレスリリースを発表しました。このリリースの骨子は、マルチビーム音響測深機を用いた高速広域調査によって簡単・お手軽に熱水活動を探査できること、および伊平屋北海丘に新しく2つの熱水活動域を発見し、元々研究が進んでいたオリジナルサイトと合わせると「これまで沖縄トラフで発見された熱水の中で最も巨大な規模の熱水域であること」をしれ一っと言いつつ切っているところです。

9月19日には海上保安庁が、「中部沖縄トラフの久米島沖に国内最大のチムニー群を発見」というプレスリリースを発表しました。AUVによる熱水探査で、広大な面積に夥しい数のチムニーやマウンドが発見しました。しっかりこれまでの報告を踏まえた比較を通じて、JOGMEC（石油天然ガス・金属鉱物資源機構）が「国内最大の熱水鉱床ンゴ！」と密やかに匂わせている伊是名海穴 HAKUREI サイトよりも「チムニー・マウンドの海底分布領域は広い」と主張しています。確かに海底に見えている突起がすべて熱水マウンドであれば、私自身の経験に照らし合わせても「世界最大の数と拡がり」と認めざるを得ません（追記：2015年1月28日にはJOGMECがROVによる海底観察によって久米島沖の熱水活動「ごんどうサイト」を確認したというプレスリリースが行われました。控えめに「HAKUREI サイト」や「野甫（のほ）サイト」に匹敵するかもと発表しています）。

12月4日には、JOGMECが中部沖縄トラフ伊平屋小海嶺付近に「新たな海底熱水鉱床の存在を確認」というプレスリリースを行いました。このリリースの骨子は、ROVによる海底観察によって野甫サイトという新しい熱水活動を確証し、その鉱石の品位や熱水マウンドの拡がりから、「国内最大の熱水鉱床ンゴ！」と密やかに匂わせている伊是名海穴 HAKUREI サイトに匹敵するというものでした。実は2015年1月11日から22日までの「なつしま」「ハイパードルフィン」による調査で、私はこの野甫サイトの調査を行ってきました。個人的には野甫サイトの熱水マウンドの拡がりや熱水活動の規模は伊是名海穴 HAKUREI サイトより大きいような気がします。であれば、JOGMEC的には「国内最大の熱水鉱床ンゴ！」と考えている節はあるような気がします。

さて、これらの新しい熱水活動域の発見のプレスリリースには、なんとなく「これまでで最大！」的なニュアンスが含まれており、それを伝えるメディアでもその部分が強調されている感じがします。専門家の視点から注意深く見れば、JAMSTECでは「熱水循環規模」、海上保安庁は「熱水マウンドの数と拡がり」、JOGMECは「鉱床規模」に視点を置いていることは分かりますが、一般（あるいはメディア）の人にとって「そんなことはどうでもいい。一体どれが、何が最大なのか？はっきりしてくれ！」という気がしているのも事実でしょう。まるでボクシングのWBA、WBC、WBO、IBFの各団体に世界チャンピオンがいて、どれが本当の最強チャンピオンなのかわからない

状態と言えるかもしれません。これまでそういうニーズが高まった際、統一王座戦によって真のチャンピオンを決めてきた歴史があります。我々は、JAMSTEC、海上保安庁、JOGMEC の団体の枠を超えて沖縄トラフ最大の熱水活動域の暫定王者ではなく統一王者を見出し、その特性や成因や開発に向けた研究開発を連携して進めてゆく必要があると思います。